

# とまた談る

2023年12月22日発行

今年は例年以上に長く続いた猛暑から一転、一面の雪景色に季節の移ろいを感じます。子どもたちの成長も、待たなし。今号も、支援のヒントになるような講演会報告や本校の取り組み等を掲載いたします。どうぞ、ご覧ください。

## 1 講演会「発達に課題のある子どもの自立を支援するために大切なこと」報告

9月10日(日)大樹町で開催された南十勝地域療育講演会に参加しました。十勝で何度もご講演されている高山恵子さんが「発達に課題のある子どもの自立を支援するために大切なこと」と題して、2時間に渡りご講演されました。最近耳にするようになった「2E」や「ゲーム依存」「教育虐待」「ストレス」などに触れ、子どもが自立するために支援者にとって大切な視点、親支援、本人が身に付けたいスキルについて具体的にお話を聞くことができました。発達障害のある人の自己実現には、自己理解・自己受容し、セルフアドボカシースキルを高めることが重要です。苦手なことを理解し、その支援が必要になることを伝えるスキルが大事で、例えば「音が苦手なのでイヤーマフを使っていますか?」「言われたことは忘れやすいのでメールで伝えてもらえますか?」など自分で言える子に育てること。苦手なことがあってもそれをカバーすることもセットで伝え、育てていく必要があると話されていました。また、オールマイティーに育てることを求めるのではなく、本人のよいところを見付けることが大事であり、ADHDの当事者である高山先生は、多弁であることから弁論大会に出ることを担任の先生に勧められたことで自分の強みを活かせたと経験からお話をされていました。

## 2 とかねっと～夏季研修会報告～

7月31日(月)に帯広盲学校、帯広聾学校、帯広養護学校を会場に、令和5年度とかねっと夏季研修会が開催されました。対面開催は令和元年以来3年ぶり、久しぶりに特別支援教育に関わる方々が顔を合わせての実施となりました。幼稚園・保育園・こども園など幼児期に関わる先生方から高等学校の先生まで幅広い校種の先生方、約80名にご参加いただきました。

今回は「みんなで語ろう!私たち十勝の特別支援教育を!!」というテーマで、「不登校」「進路指導」「障がい理解と支援」「卒業後の生活」の4つの分科会に分かれ、テーマに沿って、普段悩んでいることを語ったり、各校の現状やこれからできることを探ったりしながら、具体的な支援策について意見交換がなされました。

参加者からいただいた「分科会で良かったことについて」のアンケートでは、「同じ思いで日々頑張っている先生方の話を聞いて良かったです。いろんな校種の先生方がいてよかったです。」「普通校や保育所の先生方が抱えている悩みを聞くことができた。また、具体的な手立てについて教えていただくことができた。」「十勝の現状の一面を知ることができた。」「『社会人になる』ということを保護者や子ども本人と共に考えることで、自立活動や支援の内容を再確認したいと思った。」「ディスカッションの中で、自分が課題としていることの答えが見付かり、うれしかったです。」などのたくさんの感想をいただくことができました。研修会アンケートやとかねっと「コラム」も本校のホームページに掲載しておりますので、是非ご一読ください。

また、次年度も十勝の特別支援教育に関わる先生方にとって有意義な研修となるように企画をしていきたいと思っております。

### 「障がい理解と支援」C-2 の分科会の様子



### 3 気になる子どもの支援

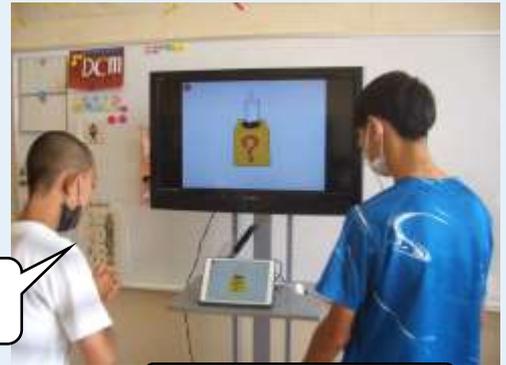
登校後の「朝の会」の進め方の工夫について、本校の取り組みの一部を紹介します。「朝の会」は、クラスの仲間と一緒に、日にちや体調、学習スケジュール、頑張りたいことなどを確認し、見通しをもって一日を過ごすために大事な時間となります。毎日繰り返されるこの時間の積み重ねが、子どもたちの話し方や伝え方、聞き方、友達との関わり方の力になっていきます。

今回は、タブレットを使って司会進行の方法を工夫し、主体的に「朝の会」に参加できるようになっている中学部クラスと、肢体不自由があり発語が難しい児童がICT機器を使って進行を展開している小学部クラスの2例を紹介します。

#### 中学部2-Dグループ



生徒自ら TV とタブレットを設定します。



誰が日直に当たるか、ドキドキ!

日直は、くじで決めます。



keynote のスライド画面をタップして進行します。画面を見て読んだり、ホワイトボードと併用して確認します。



#### 小学部4-1グループ

肢体不自由のある児童が、朝の会の進行を担当しています。画面をタップする代わりに、棒スイッチを倒してスライド操作しています。



日直とタブレットに注目して、朝の会が始まります。



日直は、棒スイッチを使って、タブレットを操作、スライドを進めています。



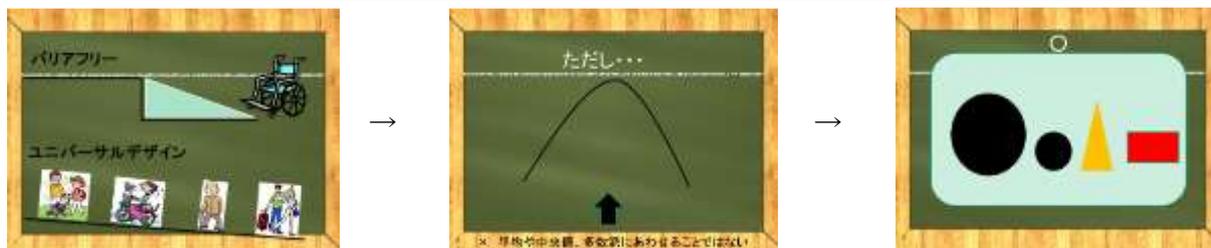
# 4 学びのユニバーサルデザインについて

特別支援教育はますます特別ではなく、全ての教師が行う教育という視点のもと、特別な支援が必要な子どもを含めて通常学級のすべての児童生徒にとって居心地、学び心地のよい環境を提供することが大事だと考えます。今回は学びのユニバーサルデザインについての基本的なことをまとめました。

## ユニバーサルデザインとは!?

**定義** 改造または特殊化された設計の必要なしで、できるだけ多くの人々が利用可能であるように製品、建物、空間をデザインすること。

つまり→ 障がいのある人がきたら構造を変えるのではなく、はじめからたくさんの方が使えるように (困らないように)しておくこと。



## 学びのユニバーサルデザインとは!? (Universal Design for Learning→UDL)

誰にでも使える(一人のためでなく、一つの方法を全てに当てはめるようなものでもない)、個々のニーズにカスタマイズや調整ができる、より柔軟な教育目標、方法、教材教具、評価を作るための案を提供する。

### <UDLの三原則>

#### ①原則Ⅰ 提示に関する多様な方法の提供【簡単に言うと・・・選択肢があること】

・認知のためのオプション・言語と記号のためのオプション・理解のためのオプション

例えば、道順を説明するときは口頭?文字?画像?何で説明しますか?口で説明されても忘れる人、地図さえあれば行ける人もいます。人に教えるときに自分の得意なもので教えることが多いですが、自分にとっていい方法が相手にも分かりやすいとは限りません。

#### ②原則Ⅱ 行動と表出に関する多様な方法の提供【簡単に言うと・・・どういうふうに学習するのがよいかということ】

・身体動作のためのオプション・表出スキルや流暢さに関するオプション・実行機能のためのオプション

例えば、「ミッキーマウス知ってる?」と聞いたときに絵で描いて表現するか、文章(言葉)で答えるか、質問に選択して答えるか、得意な表現方法は人それぞれです。絵で表せなくても知らないということではないですよね。テストで答えられなくても話をしてみるとわかっているということがあるかもしれません。

#### ③原則Ⅲ 取り組みに関する多様な方法の提供【簡単に言うと・・・よし、やろう!という気持ちをどう起こすかということ】

・興味の引き方のオプション・努力や頑張りを継続させるためのオプション・自己調整のためのオプション

例えば、じっくり取り組む、困難に挑戦する、新しいことをやってみる、一人で黙々と、何人かで楽しく話しながらなど、わくわくしたり、興味をもったりすることは一人ひとり違います。やる気を引き出す方法も、そのやる気を維持する方法もそれぞれです。

毎回、特別支援教育や障害者福祉にかかわるおすすめの本などをご紹介します。



今回は1ページ目の講演会内でもご紹介のあった高山恵子さんの著書をご紹介します。

『ママも子どもも悪くない しからずにすむ子育てのヒント』

「この本は特別支援教育に関わらず子育てをしている方に読んでいただきたい内容なので、ぜひ学校の図書館にさりげなく置いてほしい、お母さんだけではなく、お父さんにも読んでほしい」と高山先生がおっしゃっていました。全国の親向けセミナーで反響の大きかった内容とスキルがイラストや図とともにまとめられており、どうしたらもっと子どもとママの関わりが楽になるかが丁寧に解説されています。毎日がんばりすぎているお母さんが、読み終わるとふと心が軽くなり、子育てが楽しくなるようなヒントがいっぱいです。

(今号は清末、相坂が担当しました)